

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (宇治山田高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○学習活動および部活動の両面で充実感が得られ、進路希望を実現する学校 ○社会人として必要な知識や教養を習得し、人間力を高める学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自分のやるべきことを自覚し、目標実現のため自ら行動している。 ○身だしなみが端正であり、礼儀正しい。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現のため、積極的に生徒に関わり行動している。 ○「やりがい」を感じて職務を遂行している。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		《生徒》 ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、その実現のため学習活動の充実を期待している。また、部活動にも熱心に参加する生徒が多く、学習活動との両立を望んでいる。 《保護者》 上記生徒の期待に加えて、学校からの情報提供を求めている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 《家庭》 学校からの情報提供 《地域》 学校の活性化 《同窓会》 学校の活性化、生徒の活躍	連携する相手への要望・期待 《家庭》 本校教育方針・教育活動への理解と協力 《地域》 教育活動への理解と協力 《同窓会》 教育活動への理解と協力
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 学校としてきちんと評価がなされているが、もう一段階詳細に分析していくことも大切である。 伝統校としてブランド力を高めていく工夫があればよい。 部活動に対する評価も必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は学習や部活動に熱心に取り組んでいるが、もう一步の欲がほしい。 生徒は学校の規律を守り、きちんとした学校生活を送っている。遅刻者数はここ数年で大きく減少し、基本的な生活習慣は確立されている。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 前期選抜を実施して数年経過し、確実に成果を上げている。今後も検証と工夫を継続していく。 学級数減に伴い新しい体制づくりが必要である。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望進路実現に向け積極的に生徒に関わり、県内の国公立大学を中心として、国公立大学への合格者数80人以上を目指す。 生徒が自らの夢や希望を持ち、その実現に向け望ましい職業観や勤労観を養えるよう、キャリア教育を推進する。 生活面の安定が学力向上をはじめとする学校生活充実のための大きな要素であることから、生徒が規律ある生活を送ることができるよう支援する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい授業を目標に、授業の改善や教科指導力の向上に努める。 生徒が安心して学校生活を送ることができよう取り組む。 地域住民や地元小学校との交流を図る。 教職員が「やりがい」を感じることができる職場環境づくりに努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習と部活動の両立	夏季課外と部活動の棲み分け 【活動指標】優先時間帯の設定 【成果指標】課外授業参加者増(対前年度)	・夏季休業中の課外と部活動について、優先時間帯を設定した。 課外参加者が大きく増加した。 延べ人数()は平成27年度 1年生 687人(253人) 2年生 428人(81人)	◎ ※
キャリア教育の充実	進路実現に向かう意識を向上させる 【活動指標】スケジュール手帳の活用、大学教授による講演	・1年生からスケジュール手帳をもたせ、学習への取組を目に見える形で意識させた。 講演会 三重大学教授 H29. 3. 21	※
生活習慣の確立	規則正しい学校生活を送れるよう、生徒への働きかけを行う 【活動指標】毎朝の校門指導 【成果指標】遅刻数対前年度比10%減	・遅刻者数は4%減 2月末時点 延べ人数 H28:318人(H27:332人)	

改善課題

- ・夏季課外については、優先時間帯を初めて設定して実施した。次年度以降に向けて検証し、より生徒が参加しやすく部活動との両立ができるよう工夫を重ねていく必要がある。
- ・キャリア教育の充実は、大学進学とその後の職業観や労働観を作り上げていくため、引き続き取り組んでいく必要がある。また、生まれ育ったこの地域へ、将来いかにして貢献することができるかを視野に入れていきたい。
- ・遅刻者はここ数年大きく減少してきており、生徒の規則正しい生活習慣はできあがってきている。生活面の安定が学校生活充実の基本であることから、生徒の意識向上に努めたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

授業の改善と充実	指導方法の改善と教材の精選 【活動指標】教員相互の授業見学	・新・転入者中心に教員相互の授業見学を実施した。	◎
働きやすい職場環境作り	学級数減に伴う新しい体制づくり 【活動指標】教室や教員執務室の効果的配置実施 休暇取得の推進 【成果指標】夏季休暇取得率向上(対前年度)	・教員執務室・書庫・教室配置等について、生徒の状況を考慮し引き続き検討する。 ・夏季休暇取得状況は、昨年を下回った。	
地域・地元小学校との連携	地域及び地元小学校と連携した取組を行う 【活動指標】早修小学校と連携した取組 合同避難訓練(地域含む)、英語授業、交流会等	・早修小学校との連携 合同防災訓練(9月2日) 走り方教室:陸上部(9月27日) 音楽会:吹奏楽部、合唱部(12月22日) 英語授業:英語部(2月18日)	

改善課題

- ・本高の生徒を理解し授業の進め方等を工夫することは非常に大切なことであり、また、相互の授業見学は、新転入の教員にとって授業への不安を解消するいい機会となっている。教員相互の授業見学等を積極的に行っていききたい。
- ・教員の健康管理、やる気の創出、総勤務時間縮減のためにも、何らかの形で休暇を取得しやすい環境を作ることが大切である。
- ・地域に愛され必要とされる学校であるために、引き続き取り組んでいきたい。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが積極的にいろいろなことに取り組んでほしい。 ・空き教室の効果的な利活用を進めていく必要がある。 ・教員が休暇を取得しやすくなる工夫があればよい。部活動顧問の持ち方等もあわせて考えることで、休暇が取得しやすくなるのではないか。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に授業に参加できるよう、授業内容を工夫する。 ・学習活動と部活動の両立のため、夏季課外を中心に課外の在り方・内容について検証し改善する。また、部活動や特別活動の成果について積極的に生徒に伝える。 ・生徒の希望進路実現のため、キャリア教育を充実させる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学級減にともなう教室等の有効な利活用をすすめる。 ・部活動の休養日と会議を行わない日をリンクさせるなど、休暇が取得しやすくなるよう検討する。 ・地元小学校や地域との連携にできるだけ多くの生徒が参加することで、生徒がやりがいや達成感を感じ、合わせて地域への愛着が増すよう取組を工夫する。